

経済・金融 フラッシュ

小売業は前年比▲2.6%と3ヵ月ぶりに悪化 ～商業販売統計 11年8月

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

1. 小売業は前年比▲2.6%と3ヵ月ぶりに悪化

9月29日に経済産業省から公表された11年8月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比▲2.6%の10兆9480億円と、3ヵ月ぶりに減少した。季節調整済前月比でも▲1.7%と、2ヵ月連続して減少した。

物価変動の影響を除いた実質値（当研究所試算値）では前年比▲2.4%と4ヵ月ぶりに減少した。

業種別では、飲食料品小売業（前年比

1.2%）や、燃料小売業（同3.2%）が引き続き前年比で増加したものの、機械器具小売業が、6月、7月にテレビの駆け込み需要やエアコン、扇風機などの暑さ対策品が好調に推移し2ヵ月連続で高い伸び（6月：前年比15.0%、7月：同10.0%）となった反動から、前年比▲19.3%と、大幅に減少した。一方、自動車小売業は、前年比▲18.8%の減少となったものの、サプライチェーンの復旧が続いていることを背景に、4月の同▲37.8%を底に持ち直しの動きを続けている。

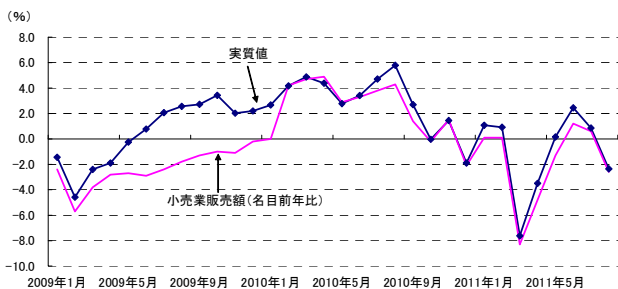
寄与度別では、飲食料品小売業が販売額全体を0.4%、燃料小売業が0.3%押し上げたものの、自動車小売業が▲2.3%、機械器具小売業が▲1.2%と大きく押し下げた。

小売業及びコンビニエンスストア販売額(増減率)

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
			大型小売店							
	前月比	前年比	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)
10年6月	0.5	3.3	▲2.4	▲3.1	▲7.4	▲5.7	0.4	▲1.6	1.2	▲1.4
7月	0.4	3.8	▲1.1	▲1.3	▲3.2	▲1.4	0.4	▲1.2	2.9	0.3
8月	1.4	4.3	▲1.1	▲1.8	▲5.0	▲3.0	0.6	▲1.3	3.2	0.7
9月	▲2.8	1.4	▲1.0	▲1.7	▲6.4	▲5.0	1.8	0.1	15.1	12.2
10月	▲1.4	▲0.2	1.2	0.4	▲0.5	0.6	2.3	0.3	▲3.3	▲6.0
11月	2.0	1.5	0.5	0.1	▲1.5	▲0.4	1.8	0.5	3.4	0.7
12月	▲4.2	▲2.1	▲1.6	▲1.7	▲2.6	▲1.5	▲0.7	▲1.8	5.4	2.8
11年1月	4.0	0.1	▲0.6	▲0.7	▲3.0	▲1.1	0.9	▲0.4	7.1	4.5
2月	0.8	0.1	1.0	0.5	▲1.1	0.6	2.1	0.4	8.5	5.9
3月	▲7.6	▲3.3	▲6.5	▲7.5	▲15.4	▲15.0	▲1.2	▲3.0	9.1	7.2
4月	4.1	▲4.8	▲0.9	▲1.9	▲2.4	▲1.8	▲0.1	▲1.9	3.0	1.0
5月	2.4	▲1.3	▲1.3	▲2.5	▲2.4	▲2.6	▲0.8	▲2.4	7.3	5.1
6月	2.9	1.2	0.4	▲0.5	▲0.3	0.1	0.8	▲0.8	10.9	8.3
7月	▲0.3	0.6	1.8	0.8	0.2	0.4	3.1	1.5	11.4	8.9
8月	▲1.7	▲2.6	▲1.8	▲2.6	▲2.4	▲2.1	▲1.5	▲2.9	9.1	6.8

(資料)経済産業省「商業販売統計」

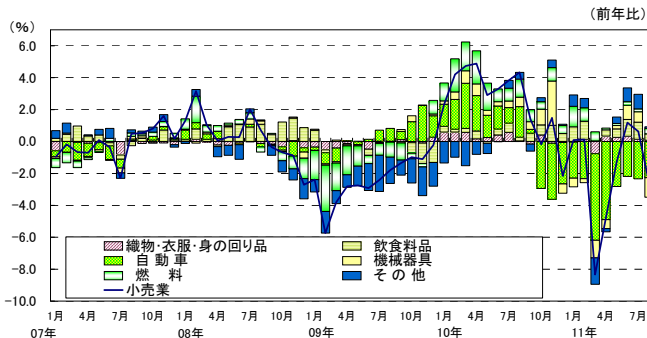
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化
2011年8月の消費者物価指数については、当研究所予測値を使用

小売業販売額(業種別寄与度)

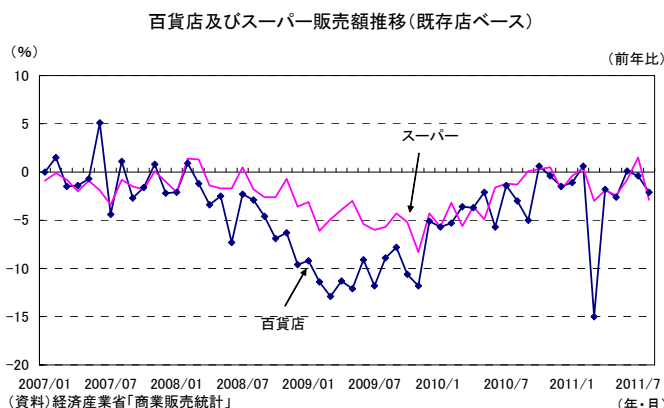


(資料)経済産業省「商業販売統計」

2. 百貨店、コンビニともに東北では復興需要から、大幅増加が続く

11年8月の大型小売店販売額（百貨店とスーパーの合計）は、前年比▲2.6%と、5ヵ月ぶりの増加となった前月（同0.8%）から減少に転じた。業態別では百貨店が前年比▲2.1%、スーパーが同▲2.9%であった。

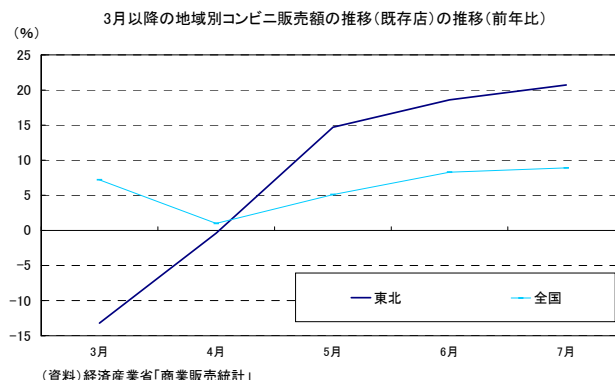
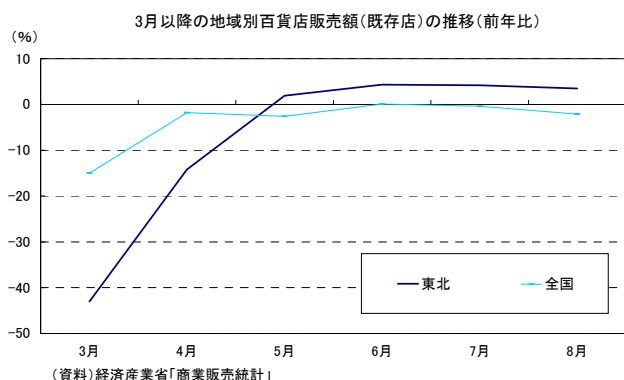
百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、紳士服・洋品が前年比▲7.5%（7月：同▲0.2%）、婦人・子供服・洋品が同▲2.2%（7月：同▲0.9%）と、減少幅が拡大したことなどから、売上高の約4割を占める衣料品全体でも、前年比▲2.4%と減少した。また、飲食料品は前年比▲0.8%（7月：同▲2.0%）と、減少幅が縮小したものの、2ヵ月連続での減少となった。



一方、コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は8099億円、前年比9.1%（全店ベース）と前月（同11.4%）に続いての大幅増加となった。

商品別では、タバコなどの非食品（前年比23.7%、7月：同26.1%）が高い伸びとなり、引き続き全体の牽引役となっている。また、ファーストフード及び日配食品（前年比5.7%、7月：同7.2%）、も、前年比での増加を維持している。

百貨店販売額・コンビニエンスストア販売額を地域別にみると、震災による影響から3月、4月に大幅な落ち込みとなった東北で5月以降、顕著な伸びとなっている。これは震災により損壊した生活財などの買換え需要が顕在化しているものと考えられる。



8月の小売業は、7月にかけて、テレビの駆け込み需要が見られたことや、エアコン、扇風機などの暑さ対策関連商品が好調に推移したことの反動などから弱い動きとなったものの、総体的に見れば、消費者マインドが改善する中、持ち直し基調は維持したものと考えられる。ただし、先行きにかけては、欧米をはじめとした海外経済の減速懸念などを背景として、不透明感が徐々に高まっており、予断を許さない状況を迎えている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。